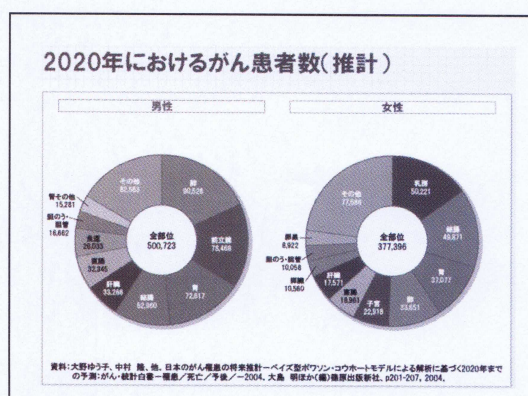
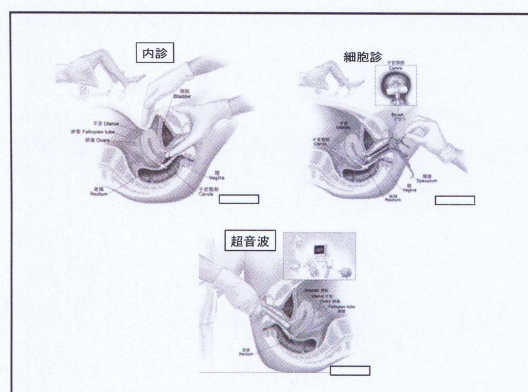


- ### 本日の内容
- 子宮がん検診を受けましょう
 子宮頸ガン
 子宮体癌
 卵巣腫瘍
 - 女性ホルモンが少なくなるとどうなるの
 萎縮性膀胱炎、骨粗鬆症
 - 女性の平均寿命は86.61歳(男性80.21歳)
 骨盤臓器脱 子宮脱



鳥取県における子宮頸がん検診

検診方法	細胞診
対象年齢	20歳以上
受診間隔	毎年
終了年齢	上限なし



子宮癌検診

子宮頸部

頭部細胞診: 子宮頸部をブラシでこすって細胞を採取します
 内臓細胞診: プラスチックのヘラを頸管内から子宮体部に入れて細胞を採取します

がん検診の結果

数年前から
 結果は、細胞の所見が記載されています。
 異常がなければ
 negative for intraepithelial lesion or malignancy
 NILM

旧分類	I	II (Hb)	IIIa	IIIb	IV	V
新分類	NILM		ASC-US		ASC-H	
			LSIL	HSIL	SCC	
			AGC		AIS	Adenocarcinoma Other malign

子宮頸部がんの進行

正常 → 異形成 → 早期がん → 進行がん

子宮頸ガン

低年齢での初交
 性的パートナーが多い
 喫煙
 多産

初期は無症状
 HPVウィルスの感染による

子宮体癌

閉経年齢が遅い
 出産歴がない
 肥満
 高血圧
 糖尿病
 乳がん、大腸癌の家族歴

女性ホルモン(エストロゲン)による
 不正性器出血

卵巣腫瘍

卵巣癌リスク因子
 初経が早い
 出産歴がない
 肥満
 高血圧
 糖尿病
 チョコレート嚢胞
 卵巣癌の家族歴

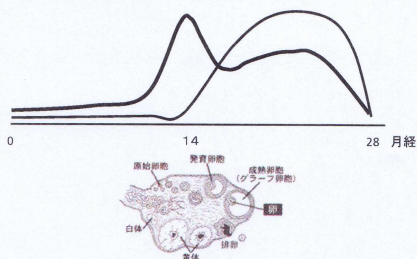
卵巣は腫れていても痛くない
 大きさと良性・悪性は関係ない
 良性: 腹腔鏡下手術(術後4日目に退院)
 悪性: 開腹手術、抗がん剤

腹腔鏡下手術

ガス腹腔鏡内に充満できる

女性ホルモン

- エストロゲン (卵胞ホルモン: E1, E2, E3)
- プロゲステロン (黄体ホルモン)



女性ホルモンの作用1

- エストロゲンが働くと、以下の効果が期待できます。
- 記憶・学習能力を高めてくれたり、物忘れを防ぐ。
 - みずみずしい肌に不可欠なコラーゲンの減少を食い止める。
 - 脳内のセロトニンの量(うつ病を引き起こす物質)を正常に保つ。
 - ストレスにさらされたときに作られる「活性酸素」の作用を抑える。
 - 悪玉コレステロール(LDLコレステロール)の減少させる
 - 血管拡張作用による動脈硬化、高血圧などの予防



女性ホルモンの作用2

エストロゲン製剤を閉経後に5年以上使用すると、わずかながら、「乳癌」の発症率が高くなります。ホルモン補充療法を行わない場合、乳癌を発症する人は10年間で1000人中8人なのに対し、ホルモン補充療法を行うと、10~11人に増えます。ホルモン補充療法中は半年から1年に1度、乳癌の健診を行います。「子宮体癌」にもかかりやすくなりますが、これはプロゲステロン製剤を服用することで、防ぐことができます。血液が固まりやすくなる「血栓症」をおこることがあります。肝臓で代謝するため肝機能障害が起きることがあります。

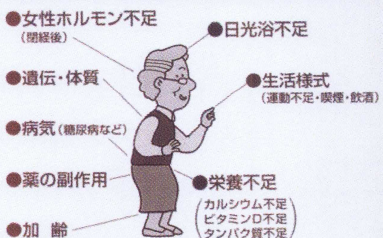
女性ホルモンの年齢変化

閉経後は女性ホルモンは卵巣では作られない。脂肪で少しだけ作られる。

男性は1年に1%づつ男性ホルモンが減ってくる。変化がゆっくりなので更年期障害は起きにくい。男性も女性ホルモンは存在し、閉経後女性のE2(エストラジオール)濃度は男性よりも低い

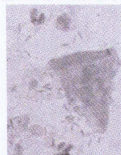
骨粗鬆症

原因は?



萎縮性膀胱炎

腔分泌物の顕微鏡写真



以前は老人性膀胱炎と呼んでいた。月経がある間は、女性ホルモンにより、腔壁の細胞内にグリコーゲンを蓄え、乳酸菌がいて、酸性に保つことで他の細菌の繁殖を防いでいる。

デーデルライン桿菌

帯下増加、外陰掻痒感、性器出血
抗生剤や弱い女性ホルモンの腔座薬

